

# 電機連合の取り組み

## 浅沼弘一電機連合書記長に聞く

Q1 最初に今回の夏期の電力需給への電機連合としての対応についてお聞きかせください。

浅沼 電機産業の場合、半導体から発電機まで多種多様な業種・業態があるので、産別として統一的な対策はとらず、各組織労使間での対策・対応を基本としています。

産別としては、省庁や政党等に要請を行っています。6月9日には、民主党に、「夏期節電に伴う家族的责任を持つ労働者への配慮に関する要請」を実施し、具体的に、①輪番休業などによる土日出勤時の保育施設および介護施設の開園要請、②夏期節電対策の影響による家族的责任を持つ労働者に対する経済的負担の軽減策の実施について要請を行いま



インタビューに応える浅沼電機連合書記長

した。同様の要請を経営者団体にも行いました。

Q2 電機産業としての対策、企業・事業所ごとの対策の傾向・特徴などについて？

浅沼 先ほど申し上げた通り、各企業や企業グループ別に、全社での対

応や事業所ごとの対応を各労使で取り決めて実施しています。

内容としては、労働条件に関わる休日振替・勤務時間帯の変更、設備等に関わる照明・空調・事務機器・エレベーターなどの間引きや節電設定、その他クールビズの期間拡大や自家発電設備の使用など様々な対応を実施しています。

### ●夏休み

例えば、今年の夏休みについては、7月から9月にかけて、3週間（土日を含む21日間）の夏季休日を設定する企業もあります。また、今年の秋の祝日を振り替えて連休にして夏休みを2回作る企業もあります。電機連合としては、そういう節電対策における勤務形態や勤務時間の変更に伴

う労務対応について相談に乗ると共にチェック表や対応マニュアルなどを作ってサポートしています。

### ●勤務体系の変更による節電

夏休みの対応と同じように、秋以降の祝日2日を電力使用量ピーク期間と想定する7～8月の平日に振り替え、事業所単位に輪番で土曜日・日曜日と合わせて4日連続の休業日を設定するところもありますし、会社全体で土日出勤とし、休みは月火と木金の二手に分けて対処しているところもあります。また土曜を出勤日として、部門毎に月々金曜に休日を設定する休日振替を実施しているところや、子供の夏休み期間のみ土曜を出勤とし月曜日を休日とする日月休みのカレンダー調整を実施した



街のあちこちに“節電中”の文字が

エアコンの節電の呼びかけ (電機連合本部)



ところなど、それぞれに苦勞をしながら対応を行っています。また逆に、特別なことはしなくても、電気の間引きや節電などで15%の節電目標をクリアしているところもあります。

**Q3** 電機連合本部ではどういう対応をしていますか？

**浅沼** 電機連合本部の場合は、蛍光灯を間引いたり、エレベーターの稼働を半分にしたりして、15%程度を目標とした削減を図っています。一番電気を食うのは空調ですが、電機

連合節電対策2011夏を決め、その中で室温を28度に保つように書いています。労働安全衛生の面からも、効率の面からも限界の室温ではないかと思っています。

**Q4** 電機産業のいくつかの企業では早出勤などをして、サマータイム制ということでも少し話題になりましたが？

**浅沼** 平時より30分早出勤する企業もあるようです。また、営業、サービス部門を除く、全事業所、拠点

で7月から9月の間、従来の勤務時間を30分から1時間前倒しにする「サマータイム制」を導入しているところもあります。夜間は電力消費量が少ないというところで夜間労働にシフトする産業もあるようですが、電機関係では、交代制を導入しているところ以外は、夜間勤務シフトするような例は今のところ聞いていません。

**Q5** 今夏の節電対策による職場環境や生活面への影響についての課

題があれば？

**浅沼** 子供を持つ共働きの家庭では、土日出勤となると、どちらかが休む必要が生ずる場合も想定されます。土日出勤者に対する保育所や介護施設、および学童保育の対応をする際、通常の保育料などは別に費用がかかることになり、経済的負担の増加などが課題としてあります。

**Q6** 震災から5カ月余りが過ぎましたが、今の思いについて？

**浅沼** 今回の震災を通じて、電機産業の中に、社会に大きな影響を与える企業が多いことを再認識しました。そういう意味で、社会的責任を踏まえて、一日も早く復興しなければなりませんと感じています。

**Q7** この夏だけでなく、今後さらに電力不足が進むことになったときの対応はどういうふうに考えていますか？

**浅沼** この夏の電力に関して言えば、幸い計画停電などの最悪の事態は避けられたのではないかと思います。ただこれは、産業の相当な努力があったからであって、産業の活力の面からみれば、来年以降もこれを



エレベーター前に貼られた節電計画ステッカー (電機連合本部)

繰り返すことは非常に難しいと思っています。そのためにも様々な側面からの対応がもたられると思います。太陽光や風力などの再生可能エネルギーを利用した発電の拡大を入れていかないといけないでしょう。しかし、産業用の電力を安定して供給するところまでにはまだまだ至っていないという現状を考えると、火力発電や原子力発電に頼らざるを得ないというのが現実ではないでしょうか。

いずれにしても、今日明日の短期的なところから研究開発を含めた長期的なところまで息の長い対応が求められると思います。電機産業としても少なからず責任はあると感じていますし、しっかりと役割を果たさなければならぬと思っています。

(文責・編集 金属労協組織総務局)